



2014年10月1日発行

安倍首相のアベノミクス3つの矢の1つに成長戦略の実行があります。その中で特に「女性が輝く社会」を目指すという挑戦が注目されるところです。中でも社会の意識そのものをかえ、上場企業には女性役員の数を経営公開することを義務付けたり、国、地方、企業などが一体となって女性が活躍しやすい社会を作るべく考えていこうということは意味があります。少子高齢化時代に労働力を確保するためには女性の力が必要です。大学を卒業してから「卵子の老化」が始まる35歳までには10年くらいしかありません。妊娠しやすい20代で出産しようとする、仕事が中途半端になりキャリアがつかれない。すると35歳くらいまでは仕事を中心。そして、妊娠、又は不妊治療、出産、育児休暇。せっかくのキャリアを生かすためにはそう長く休暇もとってられない。40歳で管理職。2人目はどうするのか、ということも又悩みの1つとなることでしょう。育児と仕事の両立は大変なこと。社会進出して管理職もやり、全て女性に押し付けるようでは、少子化は止まりません。保育所の整備も大事ですが、社会の意識改革をしないと女性は悲鳴をあげ、少子化に歯止めがかからなくなることでしょう。女性の生き方は人それぞれでいいでしょう。しかし、結婚・出産したからやめる、不妊治療で病院にかかりたいからやめる、ことが常態化することを社会が改めてもらわないと駄目でしょう。女性が活躍する場所を与えられ、今まで女性というだけで認められず、出世できなかった人達には、朗報といえますが、家事と子育てと仕事と全てを両立するには体がいくつあっても足りないと感じストレスを抱える女性も増えるかもしれません。女性ホルモンの分泌に異常をきたし、無月経や不正出血等の症状は体が疲れているサインで一番早く出現するサインです。そのサインを見落とさないようにして大きな病気を予防していくことが大切です。

★ 2014年5月～8月のARTの成績です。40歳以上頑張りましたが、流産する人が多く、なかなか出産にまでつながりませんがもう一歩です。頑張りましょう。

《2014年5月～8月のARTの成績です》

採卵件数・・・139例【～29歳4例、30～34歳23例、35～39歳47例、40歳～65例】

受精方法別 { 体外受精・・・109例
顕微授精・・・28例

融解件数・・・110例【～29歳2例、30～34歳22例、35～39歳52例、40歳～34例】

移植件数・・・114例【～29歳2例、30～34歳25例、35～39歳52例、40歳～35例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・51例（44.74%）

【～29歳1例（50%）、30～34歳19例（76%）、

35～39歳19例（37%）、40歳～12例（34.3%）